



AKASHI REFEREE CARAVAN 2023

2023年度第1回目の明石レフェリーキャラバンが、四種「西明石セントラル」さんのホームグラウンドである和坂小学校にお邪魔して開催する事ができました。

まずはこのような機会を与えていただいた関係者の皆様へ感謝申し上げます。

今回の内容は、事前にチーム側からご提示いただいたテーマをもとに、ルールの解説をはじめ日頃の疑問点、お悩み相談等、実技演習を交えながら【楽しく丁寧に】をモットーにお伝えさせていただきました。

開催日時：2023年7月2日 13:00-14:00
会場：和坂小学校 校庭

-----【詳細内容】-----

- ①ハンドの判定
- ②オフサイドの判定
- ③一人審判のポジショニング
- ④お悩み相談

審判委員会から派遣されたインストラクターが依頼されたチームの練習会場または試合会場へ出向き、身体を動かしながら楽しくルールについて学ぶ機会、それが「レフェリーキャラバン」なのです！

👉 ハンド

まずはじめにハンド（ハンドリング）を説明するにあたって、身体のどの範囲が”腕”なのかを改めて全員で確認しました。

ボールが触れたのが、「肩」なのか「腕」なのか「手」なのか。

また、①ボールが直接腕に当たった②身体のどこかに当たった後に触れた③近くの相手競技者が触れた直後に腕に当たった④至近距離からの強いシュートやパスがあった際に身体を守ろう（自然な防御反応）として当たった⑤偶発的なのか、意図があったのか⑥不自然な位置に腕があった（腕を大きく広げる）のか等、そのシチュエーションも様々です。

手や腕にボールが触れることの全てが反則にはならないので、触れた際はどのような経緯でその結果どうなったのかを現認・判断した上で判定を下しましょう。

時として、多くの選手から一斉に「ハンド！」の声が出ると思いますが、それに惑わされないことも重要です。その為には自分自身の目でしっかり確認出来る【**良い位置から見る**】事も重要です。

そこで、上記の説明をした後に実技トレーニングを行い理解を深めました。

10m×10mのエリアの中に主審役1名、選手役8名が入り、選手はそれぞれ自由に手でボールを投げ合い、その間誰かが意図して腕に触れる事象を起こさせ、その瞬間を主審が”見極める”と言った内容で実施しました。

ボールの行先を予測し、見える位置へ動きながらどこに当たったのかを判断！

ナイスジャッジあり、ミスあり、笑いあり、と楽しく学ぶ事が出来たセッションとなりました。





競技規則（俗称：
ルールブック）から
ハンドの反則を紐解
いていきましょう！

ボールを手や腕で扱う

ハンドの反則を判定するにあたり、腕の上限は、脇の下の最も奥の位置までのところとする。
競技者の手や腕にボールが触れることのすべてが、反則にはならない。

競技者が次のことを行った場合、反則となる。

- 例えば手や腕をボールの方向に動かし、意図的に手や腕でボールに触れる。
- 手や腕で体を不自然に大きくして、手や腕でボールに触れる。手や腕の位置が、その状況における競技者の体の動きによるものではなく、また、競技者の体の動きから正当ではないと判断された場合、競技者は、不自然に体を大きくしたとみなされる。競技者の手や腕がそのような位置にあったならば、手や腕にボールが当たりハンドの反則で罰せられるリスクがある。

・・・と言った条文が明記されていますので、迷ったり、悩んだり、失敗した時こそ、今一度競技規則を読み返してみましよう！！



四種(U-12)世代で採用されている1人審判制度。これまで3人で審判をしていた物と違って、オフサイドラインの監視から最終判定までを文字通り1人で行わなければなりません。それゆに広い視野を持ち、攻撃側/守備側競技者の位置と数を動きながら常時認識しておく必要があります。

このセッションでは、まずはオフサイドそのものの判定が出来るかを確認するためにフィールドに移動して実際の試合である場面を作り出し（写真参照：黒＝主審・紺＝MF・桃⇒FW・黒/黄⇒DF）何度も判定の練習を行いました。またipadにて真横から動画撮影しながらチェックする事で、より精度の高い検証（オフサイドかノットオフサイドか）が出来ました。

 オフサイド

見る角度やオフサイドラインとの距離感を今回実践・体感する事で自身が思っていた感覚と実際の正確な判定との差異（ズレ）を感覚的に知る事ができたかと思います。特に判定が際どい場面では、録画しているipadまで駆け寄り、VARさながらその場でリピート再生し事実確認出来た事も非日常的で新鮮味があったのではないのでしょうか。



競技規則から改めて、オフサイド（抜粋）について、振り返ってみましょう！

2. オフサイドの反則

ボールが味方競技者によってプレーされたか触れられた瞬間にオフサイドポジションにいる競技者は、次のいずれかによってそのときのプレーにかかわっている場合にのみ罰せられる。

- ・味方競技者がパスした、もしくは触れたボールをプレーする、または触れることによってプレーを妨害する。

または、次のいずれかによって相手競技者を妨害する。

- ・明らかに相手競技者の視線をさえぎることによって、相手競技者がボールをプレーする、もしくは、プレーする可能性を妨げる。または、
- ・ボールに向かう相手競技者にチャレンジする。または、自分の近くにあるボールを明らかにプレーしようと試みており、この行動が相手競技者に影響を与える。または、相手競技者がボールをプレーする可能性に影響を与えるような明らかな行動をとる。

または、

- ・その位置にいることによって、次の場合に、ボールをプレーして利益を得る、または相手競技者を妨害する。
- ・ボールが、ゴールポスト、クロスバー、審判員もしくは相手競技者からはね返った、またはそれらに当たって方向が変わってきた。
- ・相手競技者によって意図的にセーブされた。

・・・と言った条文が明記されていますので、迷ったり、悩んだり、失敗した時こそ、今一度競技規則を読み返してみましょう！！



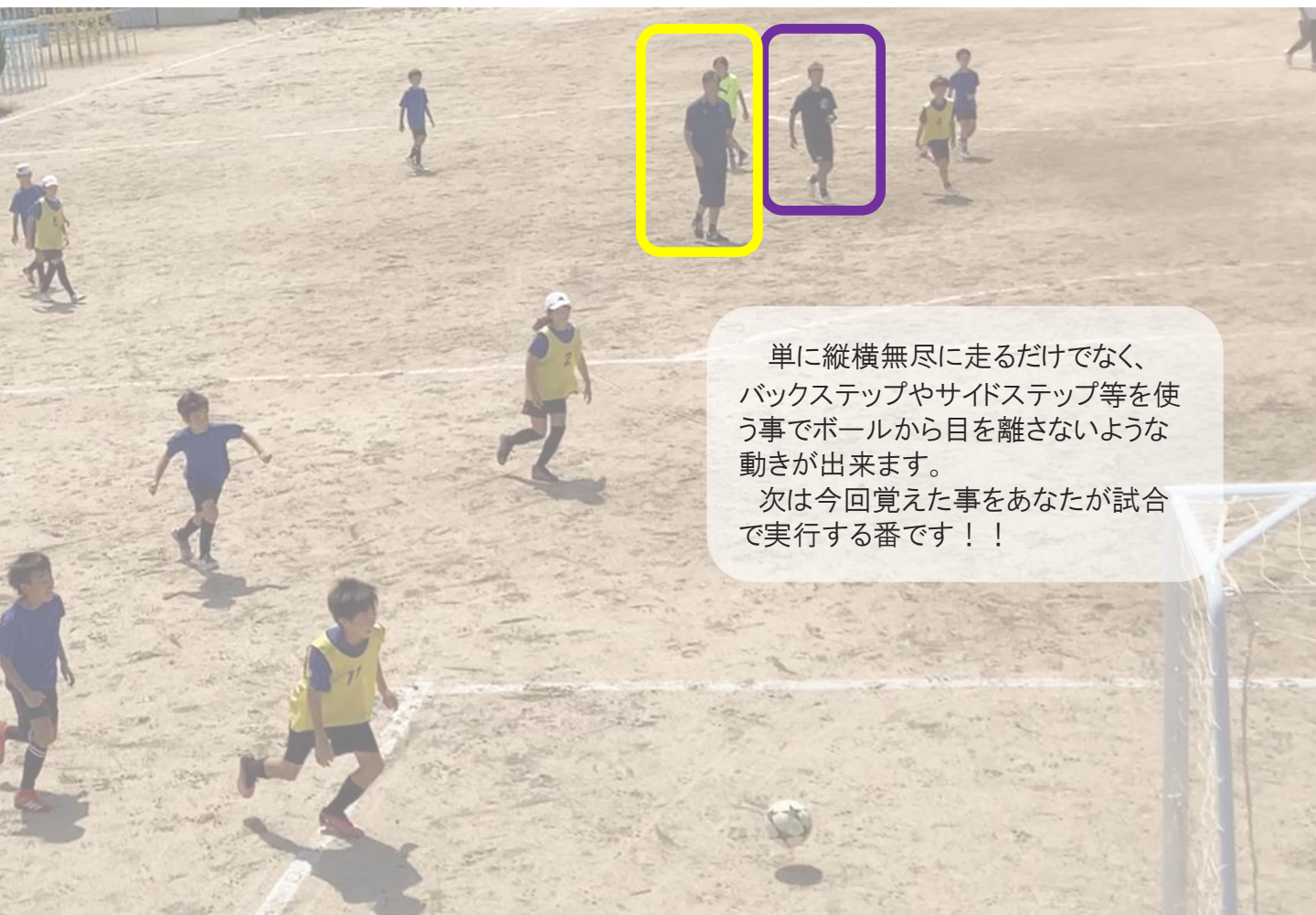
ポジショニング

次に選手の協力を得て、フィールド全体を使っでの実技トレーニングに取り組みました。普段から「1人審判の動き方が分からない」というお悩み相談を受けており、まずはお手本として、今回講師を務めた中村2級審判員（兼2級インストラクター）の動き方を見て、真似る事から始めました。

※フィールド上には、主審2人がいる状態（黄枠＝インストラクター/紫枠＝審判員）

オフサイドになりそうな展開においてはフィールド全体を広く見渡し、そうでない場面では反則やボールアウトが起こりそうな位置を予測して近寄って見たり、ゴール前の攻防では邪魔にならないよう見える位置や身体の向きを細かに変え、監視していました。

レクチャーを受けた方も「何故そんな動きをするのか？」と疑問に感じたと思いますが、予測して早い段階で次の争点へ走り出していたり、場面によっては角度を付けて見やすい位置にいるようにする等、インストラクターの動き方を見た事で肌感覚ながらその意図を感じられたのではないのでしょうか・・・。



単に縦横無尽に走るだけでなく、バックステップやサイドステップ等を使う事でボールから目を離さないような動きが出来ます。

次は今回覚えた事をあなたが試合で実行する番です！！



まとめ



大きく分けて3つのセッションをこなす事ができました。暑い中での約1時間の実技講習にお付き合いいただき、誠にありがとうございました。

新規講習会や更新講習会でお話出来なかった内容をこの場で説明できて良かったと思っています。

色々と議論していく中で改めて「現場の生の声を聴く必要がある」と感じた1日となりました。これまでのように研修会に来てもらうのではなく、我々が会場へ出向く事が何より大事であることを痛感した次第です。

おわりに

四種審判委員長である藤本氏のお声掛けからはじまり、西明石セントラルのチーム関係者の審判活動への深いご理解とご支援があったお陰で、このキャラバンが成立しています。改めて関係された方々には感謝しかありません。また当日は保護者の方々も暑い中我々の活動を暖かく見守ってくださり、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

今後は四種だけでなく、オールカテゴリーへのアプローチを図りたいと考えています。

「うちのチームに一度来て、ルール説明してくれないか？」と言った要望をドンドン出してください。チーム代表者・最寄りの審判委員へ相談いただきますと日程調整を行った上、インストラクターを派遣し、今回のような実技講習を実施する手順となります。

まだまだ小さな活動ではありますが、少しでもルールへの理解が進み、審判の動き方や気づきが1つでも多く持てるようになれば、おのずと明石のサッカーがより良い物になると信じています。今後も微力ながら継続してキャラバン活動を行って参りますので、ご支援くださいますよう宜しくお願いいたします。

審判委員会